

## 弁財天川水系河川整備基本方針修正原案が静岡県河川審議会で審議され、概ね認められました。

令和元年7月19日に、熱海総合庁舎において、伊東大川水系、北川水系の河川整備基本方針の審議に引き続き、弁財天川水系について、前回までの治水、利水、環境等に加え、特に河口部の干潟に代表される貴重な河川環境を保全していく修正原案について、概ね認められました。



文章表現の修正や追加等については、再度、事務局が作業し、修正案の確認は会長に一任していただき、修正後の内容で答申することとなりました。

今後、関係機関との協議を経て、河川整備基本方針の決定・公表へと手続きを進めていきます。

弁財天川流域は、

- ・ 宝永地震により河口部が隆起したことで潟湖が陸地化、その後の農地整備の進展等によって現在の地形や流路が形成
- ・ 中下流域は平坦な地形で、かつ標高は低いことから、ひとたび大雨が降れば支川や水路からの排水が困難
- ・ 排水機場の整備が進んだ現在においても内水を中心とした浸水被害に対し、脆弱な流域
- ・ 河口部などには、潮位の変動により生じる環境を利用する生物にとって良好な生息・生育環境であるだけでなく、水質浄化作用も有する干潟が形成

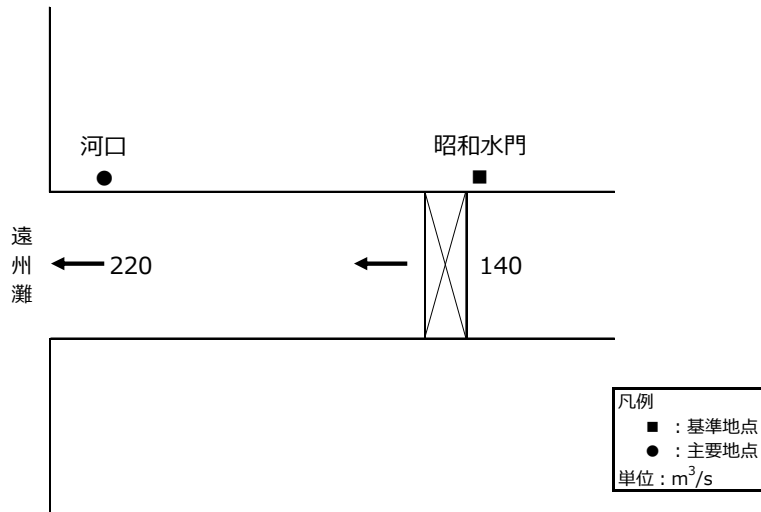


- ⇒ 過去の水害や津波災害に学び、関係機関と連携し、流域一体となって総合的な防災対策を推進していく。
- ⇒ 河口部の干潟や流域内の水田などの多様な河川環境・景観を保全し、次の世代に引き継いでいくため、地域住民が安全・安心とともに豊かな自然環境を体感でき、さらにそれを育てていくことができる川づくりを目指す。

■河川整備の基本となるべき事項

- ・基本高水のピーク流量及び計画高水流量

既往の洪水や河川規模、流域内の資産・人口等を踏まえて、現状の自然の遊水機能を保全することを前提として、年超過確率 1/30 規模の降雨を対象



弁財天川 計画高水流量配分図

- ・主要地点における計画高水水位及び計画横断形に係る川幅

主要な地点における計画高水位、川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)
弁財天川	河口	0.0	6.80 <sup>※1</sup>	—
	昭和水門	1.8	2.80	50

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

※1 計画津波水位